

教育目標	努力点	具 体 策	今年度の評価	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等	
思いやりのある生徒（温かく）	(1)豊かな人間関係を築く指導の充実	① 組織的な生徒指導体制の確立を図ったか。	(3)	① 情報の共有を適宜行いながら生徒指導にあられたが、生徒指導部がほとんど行われなかった。	・火曜日の打ち合わせを省略し、生徒指導部を時間割に位置付ける。そこで出た話題を学年会で共有してもらう。	・情報共有は大切であるので、反省点を十分活用されたい。 ・コロナ感染防止に学校行事等にも色々苦勞していることと思いますが、生徒が自分たちで達成感を感じられる行事を実施できることを期待します。 ・生徒指導部がうまく運営されなかった要因を追求し、情報共有を図りながら次年度につなげてもらいたい。	
		② 個に応じた生徒指導を実践するための教員間の情報共有を行ったか。	(3)	② 情報共有はできたが、一部の先生のみで対応するケースが多く、負担が大きかった。	・生徒指導部で検討したことを踏まえ、学年を超えた対応計画をその都度検討する。	・新たに掲げる「自己肯定感を高める」という具体策が浸透し、全うされるよう惜しみない努力を望みたい。	
		③ 互いに認め合い、問題を自ら解決する力の育成を行ったか。	(3)	③ 各学級、学年で育成を行うことはできたが、生徒の力が高まったというような結果は出なかった。	・学校行事が持つ役割が大きいと思うので、社会情勢にもよるが、学校行事を活性化させる。また、具体策の難易度が高いように感じるので、まずは「生徒の自己肯定感を高めるための取り組みを行ったか。」のように変更する。	・本項目の評価点は、昨年に引き続き低いので底上げを期待する。	
(2)居心地の良さを感じられる学級経営	① 良好な人間関係を築くための学級活動・生徒会活動の活性化を図られたか。	(4)	① 係活動や役割分担に責任をもって取り組ませることで良好な人間関係の構築につながった。	・具体策に「学校行事」を追加する。	・自己肯定感の醸成は社会生活していく上で大切と考える。しかしながら家庭環境も影響し、難しい問題であり慎重に進められたい。		
	② 規範意識の高揚とルールの徹底を図られたか。	(2)	② ルールを守ろうとする姿は見られたが、規範意識の高揚まではつながらなかった。	・自分で考え、判断させる場面を意図的に設定することで自己指導能力を高めさせるようにする。	・丁寧に保護者対応ができていて大変良い。 ・今年度も様々な活動に支障を来す年であったが工夫を凝らした運営が図られている。		
	③ 様々な関係の中で、良好な人間関係の構築を図ったか。	(4)	③ 生徒と生徒、生徒と教師、生徒と保護者、教師と保護者など様々な関係があることを考慮し、それぞれの関係がうまくいくように努めることができた。	・引き続き丁寧な対応を継続する。	・教師、生徒、保護者間の関係性の維持向上は評価できる。 ・引き続き居心地の良い学校運営が図られるような対応をお願いしたい。		
(3)道徳教育・人権教育の充実	① 全領域での道徳教育の明確化と指導の充実(多くの教員が関わる道徳授業の実践)が図られたか。	(3)	① 道徳の授業を大切にしようとする意識は高まったが、多くの教員が関わるできなかった。	・年間指導計画に担当を位置づけ、学期ごとに教員は担任以外が授業をするようにする。	・学校行事については、既存の踏襲ではなく現在の生徒に合ったものを検討していくという意識をもってあたられたい。		
	② 人権教育の充実(あいさつ運動、生徒会活動、ボランティア活動)が図られたか。	(4)	② あいさつ運動、アルミ缶回収など、心を通わせるような取り組みをすることができた。	・できたことは継続し、新たな取り組みを模索していく。	・ボランティア活動や学習の成果が地域の方々と一緒に体感できる日が来ると良いと思います。 ・相変わらず「あいさつ」は素晴らしい。また、ボランティア活動も展開されていて良好な結果と言える。		
	③ 学校行事等を通じた道徳的実践力の育成を図ったか。	(4)	③ 体育祭や合唱コンクール、旅行的行事を通して、担任が先導となり、他を思いやる行動を心がけることができた。その結果、互いの弱さを認めつつも、前向きな声かけをするような姿が見られた。	・具体策の「学校行事等」を「教育活動全体」に変更し、どの場面でも意識できるようにする。	・さらに幅を広げた道徳教育の展開を期待する。 ・人権教育では、人権教育の精神の涵養を目的とする教育も検討してもらいたい。 ・道徳は個人の性格、人格に関わることで家庭・社会環境あるいは生活に関わる人によって大きく左右されると思います。この思春期に正しく導くことは大変難しいと思います。学校・家庭が協力していく必要があると思います。		
進んで学習する生徒（賢く）	(1)確かな学力の向上を図る学業指導の充実	① 新学指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりの実践を行ったか。	(4)	① コロナ禍における技能教科のオンライン授業が難しかった。	・オンライン授業を想定した研修を深める。	・今後益々ICTを利用し家庭内を含めたオンライン授業などが多くなることから、教職員については操作技術や指導方法など十分な研修を積んで欲しい。	
		② コミュニケーションスキルを向上させ、学びに向かう集団づくりの実践を行ったか。	(3)	② 道徳教育応援チームの研究授業を行い、実践的な研修を重ね、教職員の中でよりよい授業を展開しようと意欲が高まった。	・研修の機会をつくる。	・オンライン授業は先生方、生徒たちにも慣れるまでご苦労だと思いますので家庭での注意点など協力してもらっては良いのではないかと。	
		③ 自己表現活動の実践や家庭学習の習慣化を図り、思考力や表現力を高める指導の工夫を図ったか。	(3)	③ 家庭学習から思考力や表現力を高める指導は難しかった。	・学習において自分の得意・不得意を知り、家庭学習に生かし、思考力を高めたい。	・コロナ禍に翻弄される中、オンラインの環境整備や実際の授業に取り組む姿勢や学力向上を目的としたTT授業も効果が得られていると思う。	
(2)自分の生き方考える教育の充実	④ 数学科の学力向上に向けた全学年、全授業ITの実践を行ったか。	(4)	④ T2としての関わり方が難しい。	・T1との連携を深める。	・一方で、オンライン授業、TT、家庭学習の何れにおいても課題が上がっているのので、克服できるような取組をお願いしたい。		
		(3)個に応じた指導方法の工夫・改善	① キャリアプランニング能力の育成を図ったか。	(3)	① 生徒の実態に合わせてキャリアパスポートのワークシートを作成できた。	・ワークシートの再考	・コロナ禍でもあり中学生段階でのキャリアプランニングは難しいが頑張ってもらいたい。
			② キャリアパスポートの活用を図ったか。	(3)	② 発達段階に合わせたキャリアプランニング能力が高まったかの見取りが難しい。	・教員間のコミュニケーションをしっかりとる。(連携)	・ワークシートの実用化を目指し、生徒自身の実情や成長を見守ってもらいたい。
健康でたくましい生徒（強く）	(1)健康教育の充実	① 関係機関との連携を図った校内支援体制の充実を図ったか。	(4)	① ケース会議を開き、共通理解を図れた。	・教員間のコミュニケーションをしっかりとる。(連携)	・教職員間の情報交換・コミュニケーションなど、これからもしっかり行ってもらいたい。	
		② 心と体の健康を重視して不登校生徒減少への取組の充実を図ったか。	(2)	② 通常学級と特別支援学級の連携に課題が残る。	・継続していき。	・休校や行事延期等、連携もとりたくはありますが、町との連携や行政機関の利用も必要ではないかと。	
		③ 基本的な生活習慣の確立を図ったか。	(2)	③ ゲーム、スマホ等による夜更かしが相変わらず多い。また、タブレットPCの不適切な使用方も散見された。	・生徒本人の自己指導能力の育成、家庭との連携を図る。	・様々な電子機器の取り扱いが学校だけでなく家庭との連携も重要と思われるので、双方協力して取り組んでもらいたい。	
(2)体力向上の推進	④ 毎朝の体力向上トレーニングの活動強化を図ったか。	(3)	④ 参加率が低くなってきている。(特に女子)	・コロナ禍でも、できる活動を再考し継続していく。また、授業の中で補強運動を積極的に取り入れる。	・部活動に関して、活動中止の部が出るなど、生徒の好みに偏りがあるように見受けられる。これは教員の指導力不足にも原因があると考えられることから、教員自体の指導力の向上を期待したい。		
		(3)安心・安全な学校づくりの推進	① 体育の授業における、個に応じた運動量の確保を行ったか。	(3)	① コロナの影響により運動が身近なものではなくなってしまうことにより、運動への意欲の低下がみられた。	・ニーズに応じた運営をしていく。例えば、本気で体力を高めるコースと、楽しく体を動かすコースに分けるなど。	・コロナ禍が、体育の授業や部活動の制限に拍車をかけてしまったことは否めないが、県大会まで進んだ競技もあるので、努力は報われていると思う。
			② 新体力テストの分析と重点指導を行ったか。	(2)	② 日々の教職員同士で声を掛け合いながら危機意識を高めることができた。	・今年度行ってきたことを、来年度も継続していくことが重要。慢心は決してしない。	・朝練は得手不得手も踏まえて適度に取り組んでもらいたい。
(3)安心・安全な学校づくりの推進	③ 教科と部活動、部活動同士の連携の強化を図ったか。	(4)	③ 落ち着いた生活態度であった。		・継続は力なり。期待したい。		
		④ 教職員の危機管理意識の日常化に努めたか。	(4)	④ 定期的・随時点検の強化を行ったか。		・特に登下校の際の見守りは大いに評価できる。	
		② 生徒の安全意識を高める日常指導を行ったか。	(4)			・生徒も落ち着いた態度であったことが窺えた。	

教育目標	努力点	具 体 策	今年度の評価	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
地域とともにある学校運営の推進	(1)創意ある学校運営の推進	① 学校運営の充実を図ったか。	(3)	① コロナ禍での活動となったが、それぞれ工夫することにより充実感ももてる活動を展開できた。	・コロナの影響がどの程度残るか不明だが、事前・事後の時間を含めてバランスのよい教育課程を編成する。	・コロナ禍の中で、今後はウィズコロナを考慮した学校運営が必要になることから、無理は禁物、柔軟な学校運営を期待したい。「OODAループ」的な考え方がベターと考える。
		② 調和のとれた教育課程の編成に努めたか。	(3)	② しかたがないことであるが、行事等が集中したため、生徒も教職員も1つ1つの活動に十分時間をとれなかった。		・各種の制限下、出来得る工夫をした活動は評価できる。 ・工夫された活動を生かして、調和のとれた教育課程の編成に期待したい。
		(2)家庭・地域と協調・連携した学校運営の推進	① 家庭と連携した生活・学習習慣の定着を図ったか。	(3)	① 家庭との連携は担任や学年担当を中心に、比較的良好にとれている。	・一層定着を図れるような手立てを、継続的に全校体制で考えていく。
② 地域人材を活用した活動の推進を行ったか。	(3)		② 昨年度に比べると地域の方々の協力を得ての活動を実施できた場面は増えた。	・コミュニティスクールが始まるので、今までの活動を生かしながら、より地域との結びつきを深める活動を工夫していく。	・来年度から始まるコミュニティスクールがどのように発進するのか楽しみにしています。	
(3)小中連携教育の推進	③ コミュニティスクール設立に向けた準備を行ったか。	(3)	③ コミュニティスクール設立に向けた準備も、町教委と連携して少しずつ進められた。		・家庭や地域と連携した活動が深まったことは大変喜ばしい。	
		① 小中高の連携への共通理解と協力体制の充実を図ったか。	(3)	① ハッピースローブプラン等とおして、協力体制の充実が図れた。	・馬頭高の特色ある活動を生かし、中高連携をさらに深められるとよい。	・新たな活動が始まるので、乗り遅れないように注視し、連携や結びつきが高まることを理解したい。
						・ハッピースローブプランのような活動を続けて欲しい。 ・小中高との共通理解、協力体制の充実が図れたことは評価できる。 ・地域活性化にもつながると思われるので、さらなる向上を目指してもらいたい。